

1 学校として目指す授業

「児童の主体的な学びを大切にした授業」「児童の実態に合わせた授業」

2 児童の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語・算数の「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」は、5年生時と比べると差は縮まっているが国・都の平均をまだ下回っている。特に、国語の内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が低く、続いて「話すこと・聞くこと」「読むこと」がの正答率が低い。算数は都平均より各領域で下回っており、全領域に課題がある。特に「図形」の正答率が低い。続いて「変化と関係」の正答率が低い。図形の特徴や求積や割合や比の定着が不十分であり、図や式などを用いた数量の関係の比べ方が身に付いていないと言える。	家庭学習の時間について国・都の数値と比較すると低いことが分かる。また、学習塾など学校や家以外で勉強していると回答した児童が、国・都の数値と比較すると国より14ポイント、都より28ポイント低い。国語・算数・理科の勉強が好きかどうかの質問では、肯定的な回答が90％を超え、国・都とはほぼ同じ結果となっている。以上のことから、学習することには前向きだが、家庭学習をする習慣が定着していないと考えられる。

（２）清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

学習の進め方に関する意識調査では、「どうやったらうまくいくかを考えてから学習を始める」こと、「学習をしてもできるようにならない時は、学習の方法を工夫」すること、「テストで間違えた時は、なぜ間違えたのかを考え」ることについて、「当てはまる」と答えた児童はいずれも30％程度、「学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べる」ことについては約20％であった。これらのことから、学習を始める際、既習事項から新たな課題の解決方法を推測してから取り組むことが少なく、間違えた時や分からない内容があっても、自分から解決しようとする意識が低いことが考えられる。学校以外での平日の家庭学習の時間は、「全くしていない」が約10％、「30分より少ない」が約26％、「30分以上1時間より少ない」が約35％、「自分で計画を立てて学習している」については「当てはまる」と答えた児童が30％程度であった。これらのことから、指示された必須の宿題等には取り組むが、それを自分のスケジュール全体の中に計画的に取り入れ、さらに自分に合った課題に取り組もうとする児童は少ないことが考えられる。以上のことから、本校の児童の学びに向かう意識は、基本的に受け身であり、指示された必要最低限の学習で済ませていると考えられる。

（３）清瀬市「学力調査」の分析（小学5年生）

国語、算数共に全国の平均と比較すると10ポイント以上下回っている。
（国語）内容別に見ると、特に「言葉・情報・言語文化」「書くこと」が最も乖離が大きい。日々の漢字学習や基本的な言葉の使い方等の学習の徹底が不足していることが伺える。しかし、差は年々縮まっている傾向にある。
（算数）領域別に見ると、特に「図形」、「変化と関係」が最も乖離が大きい。公式の意味理解において、指導の工夫が必要である。

（３） その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京都統一体力テストでは、全学年を通じて、立ち幅跳びと反復横跳びの結果が、全国平均を大幅に下回っている。瞬発力・調整力・跳躍力に課題がある。本校では、これらの力を伸ばしていくために校庭にサーキットを設定したり、教員同士での体づくりなどの体育の実技研修を行ったりして、普段の授業に生かしていき瞬発力・調整力・跳躍力を高める工夫をしていく。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・算数科では、公式の意味理解や空間認知力、式を読む力、立式を証明する力を身に付けさせる。
- ・国語科では、漢字や言葉の使い方の習熟を深める。また、根拠を含めた自分の考えをもつことや例を挙げて具体的に話すことを身に付けさせる。
- ・昨年度学習したことなど、基礎・基本の学習内容の定着を図る。
- ・学習に必要な感を感じ、課題に粘り強く取り組むことができるようにする態度を身に付けさせる。

4 学校全体の授業改善の視点

- ①「各教科等の身に付けさせる資質・能力」をどのような手だてをもって身に付けさせていくのかを考え、「分かりやすい授業」「好奇心を大切にした授業」の実践を行う。
- ②書く活動を重点に、学年に応じた三文作文に取り組み、書く力を伸ばす。
- ③意図的・計画的な学習指導の実施に向け、「めあての明確化」「振り返り」を意識した授業づくりを行う。
- ④基礎・基本の学習内容の定着に向け、既習事項の確認を行い、児童の実態を把握して児童が安心して学習ができるようにする。
- ⑤児童の主体的で深い学びを大切にした指導に向け、自らの考えを深めたり広げたりする機会を保障する。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	④ひらがなやカタカナの字形を整えて書けるように、文字を書く機会を増やす。 ①多くの物語に触れられるように、本の紹介や読み聞かせを定期的に行う。				①問題解決に向けた流れが定着できるように、毎時間、同じ進め方で実践する。 ④数の合成や分解を定着させられるように、いろいろな問題に取り組ませる。				③単元同士のつながりや、学年の縦のつながりを意識し、学んだことを生活体験にどう生かしたかを共有する場面を設ける。		①感じたことや思ったことを発表したり、文字や図で表したりしながら、演奏を通して確かめていく活動を意図的に設定する。		③⑤身近な自然や作品などから、自分の思いを広げたりする事ができるように制作前にイメージするものを交流させたり、制作中にも交流の時間を設定する。				①基本的な動きを身に付けるだけではなく、簡単なまきりや活動を工夫して、各種の運動を楽しむできるようにする。 ④児童が多くの人と関わり、仲良く、安全に運動できるルールの工夫を行う。				①道徳的価値について、教材で考え・共有して、終わりにするだけではなく、自分の生活に戻って、価値について広く考えられるようにする。 ⑤それぞれが考えた、自分のよりよく成長するための考えを学級全体で共有できる時間を十分に確保する。	
中学年	②三文作文を振り返りの中で日常的に活用することで文の構成の定着を図る。 ③漢字の学習では、テストまでのルーティンをつくる事で意図的・計画的に学習を行い、児童に見通しをもたせる。		③ICT（フラッシュカード・カワートのアプリ等）を活用し、反復学習を行うことで、基礎基本の定着を図る。 ⑤学習進度と連携させ体験的学習を取り入れる。主体的な態度（好奇心）を育み、考えを深められるようにしていく。 ②体験したことを自分の言葉で、三文作文の3つの項目で分かったことや、気付いたことを書かせまとめる。		①具体操作を入れ、視覚的に分かりやすい授業を行う。 （教科書のQRの活用） ③レディネステストの結果から、既習事項の確認を行い、授業進度・単元計画に反映させる。		①学校や地域の豊かな自然・地域教材を問題に活かすことで、児童の主体的な姿を引き出し、問題への考えを広げ、深められるようにする。 ④問題から考察までの学習ルーティンの繰り返し確認をし、確実に定着させる。 ⑤導入の時間を大切にし、子どもの知りたい、調べたいという態度を育てる。				①2～3人のグループで、どのように表現するかについての思いや意図を言葉や音楽で伝え合い、実際に演奏しながら表現の工夫をする学習を意図的に設定する。		①具体的な作品例やワークシートを活用して自分の思いが表現できるように設定する。				①⑤スモールステップの場や易しいルールの設定など、児童の意欲が高まるよう工夫する。また、友達と関わり合いながら、技能ポイントや作戦などを伝え合い、互いに高め合うことができるよう工夫する。				⑤自分の考えをペアや小グループで伝え合い、全体で共有し多様な考え方を認められるようにしたり、教材の道徳的価値を自分自身の生活場面に落とし込んで考えることができるようにしたりする。	
高学年	②文章を詳しく相手に分かりやすく書くために、使いこなせる語彙を増やす。そのために、三文指導を通して書く活動の日常化を図る。また、ジャーナルの活動を通して、自分の思いを書き出すことを習慣化させる。		①⑤資料から読み取ったことを整理して、説明できるようになることを目指し、ペアやグループでICT機器を活用して気づきを伝え合うようにする。学習した内容をクイズにすることで、学習後も短時間での振り返りを重ねていく。		⑤自分の考えを書くことや自分とは異なる考えを理解できるよう、小グループで発表し合い、友達の意見から自分の考えを深める機会を意図的に設定する。		①③実験や観察等で扱う事象に課題意識をもたせるために、児童の疑問を大切にしたい問題づくりを行う。児童が考えた実験を行い、その結果について多角的に考察しようという意欲をもたせ、結論につなげていく。				①どのように表現するかの思いや意図についてイメージしたことを言葉や文字で表したりしながら、演奏を通して表現の工夫をする学習を意図的に設定する。		①低学年、中学年で学んできた技術表現したいことに合わせて選択し、活用できるような題材を設定する。		①③自分事として捉え、生活に生かすことができるように、身の周りの事象を学習で取り上げるようにする。実習や生活の中で起こりうる問題を考えることを通して、生活をよりよくする一員となる方法を考える。		①動画や技能ポイントが分かる学習資料を準備し、自分の課題に合った運動ができるようにする。 ④実態に合わせてスモールステップの場を用意し、すすんで運動しようとする意欲をもたせる。		①⑤児童が言葉を使う場面を想像できるよう、身近な環境を提示し、学んだ言葉を使うとする意欲を高める。ALTや担任、友達同士での対話を通じて、積極的に外国語で伝えようとする意欲をもたせる。		⑤自分事として捉えた際に考えが深まるよう、日常的にある問題を道徳教育として捉える機会を多くつくる。国語や社会、学級活動と関連させ、教科横断的に指導する。	